

ダイナエアー株式会社



代表取締役
宮内 彦夫

謹んで新年のご挨拶を
申し上げます。

新年を迎え、皆様におかれましては益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は皆様の末席に加えていただき格別のお引き立てにあずかり、厚く御礼申し上げます。

旧年中は引き続き原発事故処理問題に根差した電力供給不安、代替発電による単価の高騰、こうした中で弊社の外気処理装置モイストプロセッサがその効能を認められ、資源エネルギー庁の＜次世代型熱利用設備導入緊急対策事業＞の指定製品となることができました。概ね空調エネルギー半減を目標としたシステムが数件、稼働し始め本年以降詳細な実証データの収集が開始されます。

ところでエネルギー問題と共に年々深刻さを増しているのが大気環境の悪化、まずは温暖化問題、既に食物栽培、漁場に大きく影響を与えていますが、昨年中は台風も記録的な発生数で大型のものが多く、フィリピンレイテ島における被災は伊勢湾台風を彷彿とさせます。国内においては此のところ冬も厳しく秋がなくなってしまったという声が聞かれます。温暖化に伴って当然ながら冷房エネルギー消費は増えますが、暖房エネルギーも増大傾向にあるようです。

次に話題性があったものが大陸から飛来するPM粒子状物質、WHO基準値改正のため従来SPMあるいは $\phi 10\mu\text{m}$ であったものが $2.5\mu\text{m}$ 対象となりました。世界の大気汚染に関連する死亡者は年間330万人と言われ、もし量が半減するなら15%は減らせるそうです。弊社製品もこれまではSPM(PM6.5-7.0)を対象としておりましたが、昨年度除去率97%以上のPM2.5専用対策品を開発いたしました。

他に大気環境に係わるものとして、従来からの黄砂、花粉、大気湿度が誘引するインフルエンザ、食中毒、温暖化によって新種のウイルス発生等も予想されていますが、国内においては熱帯性の伝染病(デング熱やマラリヤ)の領域が日本まで広がりつつあるということです。

新春早々不安を煽るような話題を列挙いたしましたでしたが、だからこそ弊社製品が社会のお役にたつ余地があるかと存じます。本年こそ少しでも会員の皆様方のお役にたつことができればと念じております。